

# 一方通行でない国際化を

編集理事 後藤 敏

学会の国際化が叫ばれてから久しい。その意図するところは、企業のボーダレス化や事業の国際化が進行している中で、学会が国際化の役割をきちんと果たすべきであるということであろう。国際化には、二とおりの意味がある。一つは、日本の国内自身（日本人）が国際化することであり、他の一つは日本（日本人）が国際社会で十分な働きをすることである。日本人は昔から、海外の文化・文明を吸収することに熱心であり、新しい技術、芸術を取入れ、日本流に解釈し、発展させてきた。一方、後者の日本から海外に出かけ、日本文化を広めることには不得意であった。

我々の電子情報通信の分野は、最初に欧米で技術が発明されたこともあり、海外から日本への技術導入には活発である。当学会誌、論文誌で引用されている参考文献の7割以上は欧米の論文である。欧米の論文が参照されていないと、論文として体裁をなしていないと感じてしまうくらいである。また海外の国際会議に参加する日本人の目的の多くは、欧米技術の動向調査である。著名な国際会議では、日本からの出席者数は発表者よりも聴講者が圧倒的に多い。海外で日本のエレクトロニクス製品が氾濫しているのに比べ、技術の流通が欧米から日本へという一方通行であることが今の国際化の問題ではなからうか。

電子情報通信分野に従事している総人数を欧米と日本と比べると、余り変らないが、研究者数を比べると圧倒的に欧米が多く、最新の研究開発は、当分、欧米中心となると思わざるを得ない。しかし、日本から多くの成果が出ているにもかかわらず、海外には知られておらず、妙な誤解を生んでいることも確かである。

本学会が世界の電子情報通信分野の触媒役として、日本の科学技術を海外に広く知らしめる役割をもつことは極めて重要である。このために、まず世界で評価される独創性のある研究成果を本論文誌、特に英文論文誌に多数投稿することを会員諸氏にお願いしたい。海外の雑誌に投稿することも重要であるが、海外の力に頼らず、レベルの高い論文を、日本から、日本人の手によって出すことは、日本からの情報発信の意味で重要である。当学会としては、英文論文誌の改革を成功させ、海外で広く論文が読まれることに全力を尽くすつもりである。今後、学会としては、海外の会員数を増加させ、海外支部を設置し、海外での国際会議を開催する等の仕組みづくりを行い、一方通行でない相互の国際化がはかれるよう努力せねばならないと思う。

会 長	熊谷信昭	編 集 長	関口利男	北海道支部長	森下俊三
副会長	大越孝敬・古賀利郎 末松安晴・稲場文男	規格調査会委員長	柳井久義	東北支部長	梅 良之
総務理事	佐々木元・甘利俊一	研究組織委員会委員長	榎本 肇	東京支部長	桑原守二
会計理事	西川清史・高梨裕文	基礎・境界研究グループ 運営委員会委員長	有本 卓	信越支部長	真柄成一
編集理事	青山友紀・後藤 敏 中村道治・原島 博	通信研究グループ 運営委員会委員長	安田靖彦	北陸支部長	小泉卓也
企画理事	下村尚久・田崎公郎	エレクトロニクス研究グループ 運営委員会委員長	佐々木昭夫	東海支部長	鈴木宣夫
調査理事	堀口孝雄・柳川隆之	情報・システム研究グループ 運営委員会委員長	辻 三郎	関西支部長	山本誠實
監 事	黒川兼行・池田博昌			中国支部長	中山 浩
				四国支部長	牛田明夫
				九州支部長	長田 正